

中国・広東省における自閉症スペクトラム児への教育的支援について
－民間特殊教育機関の実態調査から－

立命館大学大学院
応用人間科学研究科
対人援助学領域
発達・福祉臨床クラスター
何 婉琪

本研究は、中国の沿海南部の広東省の主に自閉症スペクトラム児を対象とする2か所の民間特殊教育機関を取り上げ、授業場面の観察、責任者へのインタビューと教師へのアンケートを実施し、その実態を明らかにする。

両機関ともに自閉症スペクトラム児の障害の程度や特性に合わせて療育方法や授業内容が設定されており、教師の質や教育の環境・条件は同水準である。集団授業を中心に療育が行われているが、乳幼児期には学生の状況によって認知・言語・行動などの個別指導が組み込まれている。学生には初期アセスメント（観察）を実施した後、教育アセスメントを行い、個別教育支援計画が作成される。取り組みの中で、学生の現状に合わせて個別教育支援計画は修正される。また、両機関とも教師の不足・高離職率・入職前の専門的な知識や技能の欠如を改善すべき課題としている。そのため、研修などによって教師の専門性の向上に努めている。

両機関には大きな違いが2つある。それは親の授業参加の有無と半日制・全日制である。半日制・全日制は幼稚園での自閉症スペクトラム児の受け入れと密接に関わっており、地域社会から自閉症スペクトラム児への理解・支援の程度と深く関係している。このように、自閉症スペクトラム児への教育的支援の推進は政府や特殊教育機関の役割や責任は大きいですが、地域社会から理解と支持を得ることも重要であると考えられる。